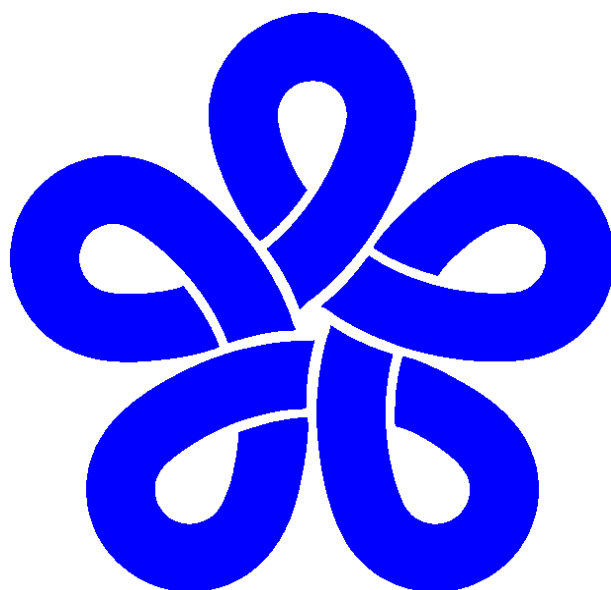


令和8年1月  
福岡県議会バンコク都議会友好訪問団  
報告書



令和8年1月13日～17日

福岡県議会

## 福岡県議会バンコク都議会友好訪問について

### 1 概要

福岡県議会とバンコク都議会は、平成19年(2007年)に友好提携を締結し、相互に隔年で友好訪問を行っている。

今年は、福岡県議会がバンコク都議会を公式訪問する年であり、友好提携を締結しているバンコク都議会のほか、バンコク都知事、ワット・ポーマッサージスクール、バーンスー環境教育保全センター、ベンチャキティ公園、畜産局等を訪問し視察、意見交換を行った。

### 2 期間

令和8年1月13日(火)～17日(土)【3泊5日】

### 3 訪問団

福岡県議会	議長	藏内 勇夫
自由民主党福岡県議会議員団	会長代理	香原 勝司
民主県政クラブ県議団	会長代理	大田 京子
新政会福岡県議団	会長代理	堀 大助
福岡県議会議員		井上 博隆
福岡県議会議員		吉田 浩一
福岡県議会議員		吉田健一朗
福岡県議会議員		山本 耕一
福岡県議会議員		豊福るみ子
福岡県議会議員		田中 雅臣
福岡県議会	国際交流コーディネーター	

随行者:議会事務局 副理事ほか2名

【1月14日(水)】

◎ワット・ポーマッサージスクール 視察(10:00～)

## I. 概要

### 1. 日程

2026年1月14日(水)午前10時(現地時間)～

### 2. 視察場所

・ワットポーマッサージスクール

60 Maharat Rd, Phra Borom Maha Ratchawang, Phra Nakhon,  
Bangkok

### 3. 対応者

・ワットポーマッサージスクール役員ほか

## II. 目的

この視察の目的は、2500年以上の歴史と伝統を誇るタイ古式マッサージについて、その継承・教育のプロセスやカリキュラム、実習授業の様子などについて学び、タイの伝統的かつ代表的文化である古式マッサージについての理解を深め、福岡県での「伝統文化の継承」についての学びを得ることである。訪問団はこのマッサージスクールにて、座学でタイの古式マッサージの歴史とスクールの設立経緯等をレクチャーされた後、スクール内での実践講座の様子を見学した。個々人がマッサージの施術を受けることは目的ではなく、実際に施術は受けなかった。

## III. 視察内容

訪問団は「涅槃仏」の釈迦像で知られるワットポー寺院から歩いて数分の場所に立つビル内に所在するワットポーマッサージスクールを尋ねた。そこでまず、スクールの役員よりパワーポイントによるタイ古式マッサージの歴史およびスクールの概要についてのレクチャーを受けた。

タイ古式マッサージのルーツは約2500年前、仏陀の主治医団の筆頭医師であった Javika Kumar Baccha がタイに伝えたものとされる。その後、マッサージの施術法は口伝により脈々と続いていたが、18世紀にバンコク王朝(チャクリー王朝)を開いた国王ラーマ1世がタイ伝統医学の知識や方法などをワットポー寺院の壁や石に刻ませ、保存と継承を図ったことによりワットポー寺院がタイ古式マッサージの総本山とされるきっかけとなった。その後19世紀になり1832年にラーマ3世が1世の取組をさらに発展させ、医学やマッサージ、ヨガなどの技術および知識を図や文字として壁や石に刻み、一般国民にも開放し、これによってタイ古式マッサージは体系化され、そこでマッサージを学ぶ者が集まり、スクール化したとされる。

タイ古式マッサージスクールの歴史と現在のスクールの概要について学んだ後、訪問団は上部フロアにおいて技術伝承の実践の様子を見学した。そこでは、黄色い服を身にまとった実習生がフロア全体にびっしりと並び、対人的な施術実習を互いに行っていた。中にはタイ人だけでなく外国人実習生の姿も見受けられた。ちなみに、(ここでの受講生ばかりではないと思われるが)日本でもタイ古式マッサージの資格を持って店を開いている人は多く、福岡県内だけでも100店舗ほどが存在するという。

タイ国内にはワットポーマッサージスクール(バンコク市内に2か所の拠点を設けている)のような政府公認のスクールのほか、小規模なものを含めて数百か所のスクールが存在しているとのこと。伝統文化の継承と発展を行政も含めて体系的・積極的に行っている様子を視察し、福岡県における伝統文化の継承に関する行政の役割や使命など、学ぶべきことの多い視察であった。

### 施設概要

タイ古式マッサージの総本山といわれる「ワット・ポー(ねはん寺)」内にあるマッサージ・サービスセンター。マッサージ学校として開設されているが、タイ古式マッサージを受けることもできる。

タイに伝わったマッサージは、師から弟子へ、医者や修行僧らによってその技術が伝えられました。アユタヤ王朝以降、宮廷医師らによって治療法がまとめられ、ラーマ3世(1824-1851)の命で壁画や銅像、石版に記録されたものがワット・ポーに残っている。

1957年には「タイ伝統医学校」を開校、保健衛生省の管理の下、基本を学んだ人に免許を発行。いまやこの学校には、日本を含めた世界中からの人々が伝統のタイ古式マッサージを学ぶために訪れている。

(タイ観光庁HP ワット・ポー・マッサージ・サービスセンターより引用)





(タイ古式マッサージ概要説明)



(実技の練習をしている様子)



(マッサージスクールの皆様と)

#### <訪問団コメント>

- ・ 無形民俗文化、というと日本では祭り行事を真っ先に思い浮かべるが、マッサージ施術をタイの民俗文化としてとらえ、そのブランドを維持するためのクオリティコントロールをしっかりと行っていることについて、多くのことを考えさせてくれる視察であった。民俗文化というものは、地元民から見ると生活の中に溶け込んでおり「あって当たり前」で、取るに足りないものと感じて見過ごしていることが多いものだ。タイにおける古式マッサージのように「見過ごしている」ものがないか、私たちも福岡県の「足下」にある文化を発掘し、しっかりと形を保ちながら継承していくことが大切である。
- ・ タイにおける古式マッサージに相当するような福岡県の文化とはなんだろうか？ たえば「角打ち」みたいな大衆文化も、見直してみると意外な発見がありそうだと感じた。角打ちは海外の観光客にもアピール力が強いと聞き、うま

く展開すれば世界に受け入れられる福岡の「文化」となるかもしれない。身近なものほど、価値あるものでも意外と見過ごしてしまっているものだ。町おこしの基本となるものは「歴史・文化・人」と聞く。タイ古式マッサージは、長い歴史を有する文化で、それをゆるぎなく継承する人を育てるプログラムとして極めて体系的かつ有用な取組であることが視察の結果わかった。今まで県議会では有形・無形の文化の継承について何度も質問を行ってきたが、我々が「そんな小さなことを扱うべきでない」と軽視しスルーしてきたものの中に、世界に通じる福岡の文化がないのか(豚骨ラーメンも該当するか?)、改めて検証する必要があると感じた。

## ◎バーンスー環境教育保全センター 視察(13:30～)

### I. 概要

#### 1. 日程

2026年1月14日(水)午後2時30分(現地時間)～

#### 2. 視察場所

・タイ国バンコク都 バーンスー環境教育保全センター  
Bang Sue Environmental Education and Conservation  
Center: EECC  
Vachirabenjatas Park (Suan Rod Fai), Bangkok

#### 3. 対応者

・バーンスー環境保全センター センター長ほか

### II. 目的

福岡県は2016年にタイ天然資源環境省と環境協力協定を締結し、以来タイ王国やバンコク都に対し環境保全に関する技術供与、また環境行政に関するアドバイス等を積極的に行ってきた。今回のバーンスー環境保全センター訪問では、現在のバンコク都における下水道処理等環境保全に関する施策の現状についてセンター関係者から説明を受け、今後の相互地域の環境行政に資するための学びを得ることが目的である。

### III. 視察内容

バーンスー環境教育保全センターはバンコク都の北部にあるワチラベンチャタート公園の北西部に位置する下水処理施設および教育施設である(バンコク都の下水処理施設は全部で7か所)。単なる下水処理施設でなく、ワチラベンチャタート公園の自転車道、歩道、ジョギングコースなどと接続されており、処理水が満たされた池の周囲を市民が散策するなど、環境に配慮し、公園と調和した施設となっている。下水処理施設は2階建て施設の地下に集約されており、1階はギャラリーや教育用展示など、2階はカンファレンスルーム等が設置されている。

訪問団はカンファレンスルームで、現在のバンコク都における下水処理状況についてレクチャーを受けた。バーンスー下水処理施設は2012年に供用が始まった新しい下水処理場で、下水道幹線路を通じて集まった下水を1日あたり最大20万立方メートル処理できるという。先に触れたようにその処理水は池として親水公園に満たされている。しかし、バンコク都の下水道普及率は全世帯の半分程度であり、その普及には管路の敷設など多くの課題があるとの説明があった。汚水の溢水や河川への流入は言うまでもなく感染症の拡大などの衛生環境悪化を引き起こす。しかし下水

道施設の普及に当たってはインフラ整備に莫大な費用がかかり、その原資は増税等で賄わざるを得ず、都民の理解を得るのが難しい状況であるとのことである。

訪問団からは、都民の衛生意識の向上が非常に重要であるとの認識を伝え、環境教育の機能も持つこのセンターは非常に重要な施設であるとの意見を申し述べた。福岡・バンコク両地域における環境行政における教訓、課題を認識することのできた訪問であった。

### 施設概要

バーンスー環境教育保全センターは、既存の環境との調和を目指して設計されており、ワチラベンジャタス公園の北西貯水池と鉄道公園の境界に建設された。2階建てのメイン棟は地下下水処理場を備えており、公園に面している側面には、地下下水処理場にて処理された再生水を利用した全長100mの滝が設置されている。



造園エリアは貯水池の上に建設されており、水面に浮かんでいるように設計されています。水生植物を生息地や植物群別に展示するオープンウォーターガーデンは、多種多様な水生植物を楽しむだけでなく、専用のスペースでレクリエーションやコンサートを楽しむこともできる。





(概要説明及び意見交換)



(施設見学)



(職員の皆様と)

#### <訪問団コメント>

- ・ タイ・バンコク都ではしばしば下水を処理しきれなくなってあふれ、それが問題となっているとはバンコク都のチャチャート都知事からも従前から伺っていた。しかし下水道の敷設、今後の普及にあたっては障壁が多いということが今回の視察でのディスカッションでよく分かった。公益性の維持・向上のため、福岡県での知見が活かさないか熟考のうえ、議連等を通じてバンコク都側に提案していきたい。
- ・ また1階にあったパネル展示などが充実しており、学校の生徒もよく見学に来ているとのことだった。外の親水公園も含め、迷惑施設となりかねない下水処理場をこのように「親しみやすい」「来てためになる」場所にすることは、今後福岡県における公共施設の建設にあたっては大変勉強になる取組であると思う。
- ・ そして視察後に知ったことだが、この施設の設計は国際的に非常に高く評価さ

れているとのこと。建築物としての構造的な評価も高いが、公共公園の周遊路等と有機的に接続し、処理水を親水公園としているなど、人と共生できる施設として造られていることが評価につながっているようだ。ごみ処理施設等の施設の設置にあたって、「生活とひとつながりである」ということは今後必須なのだろうと感じた。

- ・ 計画的な都市構築が行われずに自然に拡大していったであろうバンコク都で、入り組んだ路地に下水道を敷設していくことは本当に大変だと感じる。必要な施策と行政が判断しても、普及のメリットをしっかりと伝えて住民の納得を得られなければ、施策実現は難しい。福岡県にとってもこの事実はインフラ整備という観点で重要な示唆に富んでいると考える。

◎タイ国福岡県人会及びタイ福岡 OB 会との意見交換会(19:00～)

**タイ国福岡県人会概要**

設立:1982年

会員数:約700名

主なイベント:企業親睦会(年1回)

船上パーティ(年1回・12月)

懇親会(9月を除く奇数月の第1水曜日)

**タイ福岡OB会概要**

設立:2014年

会員数:約80名

タイ政府や大学、日系企業で勤務している方々

その他:福岡県への留学や勤務経験などがある方々によるOB会

**意見交換内容**

タイ国福岡県人会会長をはじめとするタイ国福岡県人会会員及び本県に留学経験のある大学関係者等からなるタイ福岡 OB 会会員から計7名に参加いただいた。藏内議長は、日頃から福岡県とタイとの交流の架け橋として、大きな役割を果たしていただいている、県人会・OB 会の皆様と再会できたことに対する喜びと感謝の言葉を述べられ、引き続き両国の友好関係に協力を依頼した。その後、和やかな雰囲気の中で、タイやバンコクの情勢や文化などの様々な分野にかかる意見交換が行われた。

参加議員と同郷の方もおられ、懐かしい話などで盛り上がり、親睦を深めることができた。



(挨拶をされる藏内議長と県人会会長)

【1月15日(木)】

◎バンコク都知事表敬訪問(10:00～)

## I. 概要

### 1. 日程

2026年1月15日(木) 午前10時(現地時間)～

### 2. 表敬先

・タイ国 バンコク都 都庁舎

173 Dinso Rd, Sao Chingcha, Phra Nakhon, Bangkok

### 3. 対応者

・チャチャート・シティパン バンコク都知事

## II. 目的

この表敬の目的は、チャチャート・シティパン都知事と意見交換を行い、2024年に交わした福岡県とバンコク都とのワンヘルスに関するMOUに基づく取組の進捗や今後の双方の関係構築などについて確認するためのものである。

## III. 報告

冒頭、チャチャート都知事は、バンコク都と友好関係を結んでいる世界の約60か所の都市の中でも福岡県が特に親しい姉妹関係を結んでいる都市であることを示したうえで、今後も活発に活動を展開していこうと歓迎の言葉を述べた。

蔵内勇夫議長はまず、前年10月に亡くなったタイ王国のシリキット王太后への弔意を申し述べた。そして、都知事と服部福岡県知事との間にワンヘルス推進に関する基本合意のMOU(覚書)を締結することが出来たことに謝意を表した。

蔵内議長はまた、福岡県とバンコク都の間の友好提携が結ばれ、約20年の長きにわたって経済や教育、環境などの交流が進められ、それらの積み重ねが様々な成果を生んでいるとしたうえで、今後も福岡県議会はタイ友好議連を中心にワンヘルスをはじめとして両国の友好関係を深めていきたいと述べた。

ワンヘルスに関連してチャチャート都知事から、タイ国内では継続的に発症者が発生している狂犬病(タイ語でローク・ピット・スナック・バー)について、日本での封じ込めの成功についてたいへん興味があり、その対策を参考にできれば、などの話題がのぼり、その他についても活発な意見交換が行われた。

## バンコク都概要

人口:5,471,588 人(2023 年)

面積:1568.737m<sup>2</sup>(都市圏人口は 2018 年時点で 1600 万人超)

世界有数の大都市圏を形成している。ASEAN 経済の中心地で、東南アジア屈指の都市でもある。

タイの王宮や政治の中枢機関が集中し、交通網が整い、宿泊施設も多いバンコクは多くの各国要人を招き、アジアで 2 番目に多くの国際会議が開かれる都市。日本の企業も進出しており、一風堂や玄風館など福岡の飲食店もみられる。

## バンコク都知事略歴

姓名

チャチャート・シティパン(Chadchart Sittipunt)



外務省 HP

政治歴

- ・インラック政権下で運輸大臣を務めた(2012-2014)。
- ・タイ貢献党に所属していた 2019 年の総選挙時、首相候補に指名されたが辞退。
- ・無所属で出馬した 2022 年 5 月の選挙で、前バンコク都知事アサウィン氏などを破り、バンコク都知事に初当選。

## 表敬内容

チャチャート都知事からは「バンコクにご訪問いただき誠にありがとうございます。バンコク都は姉妹都市が世界中に 60 都市くらいありますが、福岡県は特に親しい姉妹都市だと考えられます。これからも色々な活動を一緒にやり続けることでしょう」と歓迎の意を表された。

藏内議長はまず初めに、昨年10月にご崩御されたシリキット王太后陛下に哀悼の意を表し、「王太后陛下の御功績により、今日の我が国とタイ国の友好関係がしっかりとしたものになっていると思っております。」と感謝の意を示された。

また、「2006 年に福岡県とバンコク都と友好提携が結ばれまして、経済、教育、環境、色々な面での交流を積み重ねてまいりました。また去年は、チャチャート知事のご厚意によりまして、服部福岡県知事との間でワンヘルス推進に関する基本合意を結んでいただくことが出来ました。改めて感謝を申し上げます。」と交流の歴史について言及され、感謝を述べられた。ご自身が獣医師であることに触れられ、この春には世界獣医師会の会長に就任する予定であるためこの「ワンヘルス」という大きなテーマを世界各国に広げていきたいという強い決意を表明された。今後も福岡県議会がタイ友好議員連盟を中心に、ワンヘルスをはじめとする多様な分野で両国の絆を深めていきたいと述べられた。

その後の歓談では現在バンコクが取り組んでいる狂犬病対策を中心に意見交換が行われた。



(意見交換の様子)



(都知事と記念品の交換)



## ◎バンコク都議会議長 表敬訪問(14:30～)

### I. 概要

#### 1. 日程

2026年1月15日(木)午後2時30分(現地時間)～

#### 2. 視察先

・タイ国バンコク都 都議会庁舎  
111 Thanon Mit Maitri, Din Daeng, Bangkok

#### 3. 対応者

・バンコク都議会 ウィプット・スリーワウライ議長 ほか都議会議員

### II. 目的

この表敬の目的は、福岡県議会と2007年以来友好提携を結んでいるバンコク都議会を訪ね、議長同士で意見交換を行って今後の相互交流や施策の実施について話し合うものである。

### III. 報告

2025年7月に就任したバンコク都議会のウィプット議長は、福岡県議会の蔵内議長や訪問団各位へまず来訪への感謝を申し述べたうえで、2007年にバンコク都議会と福岡県議会で友好提携を結んで以来、今日まで安定した友好関係が結ばれ、交流が進展してきたことを高く評価するとの意見を表明した。そして、2024年に両議会の間で、ワンヘルスをテーマにした協力関係ならびに友好関係構築に関するMOUが締結されたことに触れ、双方に暮らす人々のため、今後も協力して有意義な結果を生むことを願うと話した。

これに対し蔵内議長は、ウィプット議長と同様、2007年以来の友好提携関係に基づいて活発な交流が行われ、双方が強い絆で結ばれてきたことを再確認したうえで、2024年にワンヘルス推進に関するMOUが結ばれたことについて、このアジアから世界へワンヘルスという人類共通の課題をしっかりと伝えていく決意であり、バンコク都議会の皆様に引き続き支援と協力をいただきたいと話した。

その後、(チャチャート都知事との会談でも話題にのぼった)狂犬病の対策、またバンコク都内で顕在化してきたホームレスの問題について活発に意見を交換した。

## バンコク都議会概要

議員定数:60名

任期:4年

構成:タイ貢献党、人民党、民主党、ラック・バンコク・グループ、  
国民国家の力党、タイ・サーン・タイ党、タイ誇り党

バンコク都議会議長

氏名:ヴィプット・スリーワウライ(Mr. Viput Srivaurai)

生年月日:1990年9月5日

現職:バンコク都議会議長(2025年7月31日就任)

選出区:バーンラック区、バンコク都

政党:タイ貢献党

学歴:タイ民間航空用訓練センター 航空学航空プログラム技術学士  
(第一級学位・金メダル受賞)

職歴:バンコク都議会議員(2022年5月22日～)

バンコク都議会第一副議長(2024年6月6日～2025年6月27日)



バンコク都議会第一副議長

氏名:ネティプーム・ミンルジラーライ(Mr. Natipoom Ming-rujiralai)

生年月日:1980年10月9日

現職:バンコク都議会第一副議長(2025年7月2日就任)

選出区:ブンクム区、バンコク都

政党:タイ貢献党

学歴:ハワイパシフィック大学 文学士  
チュラロンコン大学 文学修士

職歴:バンコク都議会議員(2022年5月22日～)



バンコク都議会第二副議長

氏名:チャトチャイ・モーディ(Mr. Chatchai Mordee)

生年月日:1993年6月15日

現職:バンコク都議会第二副議長(2024年6月6日就任)

選出区:バーンナー区、バンコク都

政党:人民党

学歴:泰日工業大学 理学士

職歴:バンコク都議会議員(2022年5月22日～)



## バンコク都議会との交流

### ■ 友好提携締結等

- (1) 友好提携協定: 2007年1月16日調印  
藤田議長とタワチャイ議長の間でバンコク都において友好提携協定書に署名
- (2) 福岡県アジア交流推進議員連盟 : 2007年7月19日発足  
福岡県タイ友好議員連盟: 2009年6月23日  
福岡県アジア交流推進議員連盟より改組
- (3) 消防自動車の寄贈と受入に関する取決め: 2014年3月25日  
松尾議長、九州の自立を考える会蔵内会長とピパツ議長、キットポン委員長との間でバンコク都において署名
- (4) 消防自動車寄贈事業に関する実施協定: 2014年3月25日  
吉村タイ議連会長とキットポン委員長との間でバンコク都において署名
- (5) 友好提携10周年に係る覚書: 2017年5月11日調印  
中尾議長とクリアンサック議長の間でバンコク都において更なる協力関係に関する覚書に署名
- (6) 福岡県議会とバンコク都議会との協力関係確立に関する協定  
: 2024年11月20日調印  
香原議長とスラジット議長の間でバンコク都においてワンヘルスに関する新たな協定を締結

「福岡県議会とバンコク都議会との交流の歩み」

年		月 日	行 事
2006	平成 18	2月 7日 ～13日	「福岡県バンコク都及びデリー準州訪問団」に藤田議長他議会一行同行。県と都との友好提携調印式(2月8日)、バンコク都議会議長を表敬訪問
		2月 24日	バンコク都議会議長来福、議長を表敬
2007	平成 19	1月 15日 ～18日	福岡県議会がバンコク都を訪問し、バンコク都議会と友好提携を締結(1月16日)
		9月 13日 ～15日	バンコク都議会友好訪問団 来県 ※ (14日 議長表敬、歓迎夕食会)
2008	平成 20	1月 21日 ～26日	福岡県議会後藤副議長他、カンボジア王国及びバンコク都議会訪問(25日 議長表敬)
		4月 3日 ～7日	第1回バンコク都議会による福岡県友好訪問団 (3日 議長表敬、歓迎夕食会)
2009	平成 21	5月 14日 ～18日	福岡県議会文化交流訪問団がバンコク都議会訪問 ※ (吉村副議長外議員5名、小倉祇園太鼓保存振興会6名)
2010	平成 22	1月 19日 ～24日	第1回福岡県議会によるバンコク都友好訪問 (吉村タイ友好議員連盟会長外議員9名)
		4月 22日 ～27日	第2回バンコク都議会による福岡県友好訪問団 (22日 議長表敬、歓迎夕食会)
2012	平成 24	1月 30日 ～2月 3日	第2回福岡県議会によるバンコク都友好訪問 (原口議長外議員9名)
2012	平成 24	5月 16日 ～20日	第3回バンコク都議会による福岡県友好訪問 (17日 議長表敬、歓迎夕食会)
2013	平成 25	3月 14日 ～17日	福岡県観光プロモーション バンコク都訪問 ※ (議会からは松本議長のみ、執行部は小川知事ほか)

2013	平成 25	10月15日 ～19日	第3回福岡県議会によるバンコク都友好訪問 (松尾議長外議員9名)
2014	平成 26	3月25日 ～29日	第4回バンコク都議会による福岡県友好訪問 (25日議長表敬、歓迎夕食会 28日消防自動車寄贈式)
2014	平成 26	4月21日	バンコク都議会寄贈消防自動車調査特別委員会 訪問団来県(消防学校において実地調査) ※
2014	平成 26	7月18日 ～20日	クルージュ・ジャパン・フカ・イン・バンコク及びタイ福岡OB会発会式に伴うバンコク都訪問(加地議長外3名) ※
2015	平成 27	11月25日 ～29日	第4回福岡県議会によるバンコク都友好訪問 (藏内訪問団団長外議員11名)
2016	平成 28	9月8日 ～11日	第5回バンコク都議会による福岡県友好訪問 (8日議長表敬、歓迎夕食会、10日送別宴)
2017	平成 29	2月19日 ～23日	福岡県・福岡県議会によるバンコク都訪問 ※ (小川知事、佐々木徹副議長外議員13名)
2017	平成 29	3月27日 ～31日	バンコク都議会友好訪問団 来県 ※ (27日議長表敬、30日歓迎昼食会)

#### 表敬内容

バンコク都議会議長のウィプット・スリーワウライ議長をはじめとする議員の皆様への表敬をおこなった。

ウィプット議長は、「バンコク都議会と福岡県議会は2007年に友好提携を結んで以来、今日まで安定して友好関係を継続してまいりました。2024年には両議会の関係を深め、協力を拡大するため、ワンヘルスをテーマとして両議会の協力関係及び友好関係構築に関する協定を締結いたしました。両都市の市民の幸福と安寧、共通繁栄のため今後とも協力し、有意義な結果を生み出せることを願っております。」と挨拶がなされた。

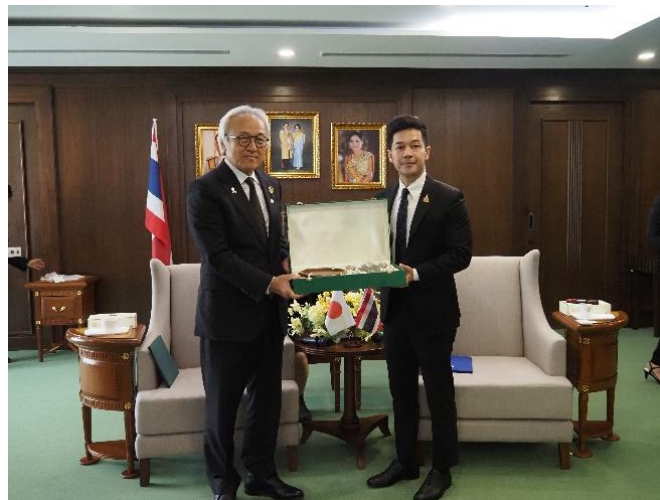
藏内議長は、「2007年に我々両議会が友好提携を結ぶことができました。以来、各分野において活発に交流を重ね、強いきずなを築き上げることができました。」と長年にわたって築き上げてきた友好関係を再確認された。特に、スラジット前バンコク都議会議長と香原前福岡県議会議長のもとで「ワンヘルス推進に関する協定」が締結されたことに言及され、「このワンヘルスという人類の共通の課題をこのアジア

から世界へしっかりと広めてまいる決意でございますので、ヴィプット議長を始め、バンコク都議会の皆様方の引き続きご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。」と国際的な連携の重要性を強調された。

その後、狂犬病の対策やホームレスの問題について意見交換が行われた。



(表敬の様子)



(記念品の交換)

#### <訪問団コメント>

- ・ 実は訪問した時期のタイ王国は総選挙の真ただ中で、街頭には選挙ポスターがあふれ、選挙カーの姿もしばしば見かけた。都議会議員の皆さんも選挙応援等で極めて多忙のなか我々のために時間を割いていただいたことは感謝したい。毎年交互に訪問している議会間の相互交流で、今年はバンコク都議会が福岡県を訪問する予定となっている。しっかりと歓待しつつ、協議を重ね、さらに親交を深められればと思っている。

- ・そして、都議会議長から話題にのぼった狂犬病について、報道によると14日に発生したバンコク都の狂犬病患者が確認された場所は、我々訪問団も一昨日利用したスワンナプーム空港が含まれるエリアだったとのこと。発症すれば致死率100%の危険な人獣共通感染症である狂犬病は、日本では撲滅されているもののいつまた脅威となるかもしれない。バンコク都とはモノや人の交流が盛んであり、タイ国内での狂犬病封じ込めは他人事でない問題として我々も助言・支援をおこなっていかなければならない。議会同士のパイプを通じて縷々取り組んでいく。
- ・ウィット議長はたいへん若く、ロケット工学の専門家であるという話を伺った。藏内議長とのディスカッションにおいても、インテリジェンスあふれる語り口でいまのバンコク都の課題について語っておられた。都議会議長は慣例として1年交代のようだが、議長が替わっても継続性のある交流を重ねていくことが肝要と思う。そのため、バンコク都議会訪問団が福岡県を訪れた際には、単に友好親善を深めるのみならず、個々の議員と両議会で取り組んでいる事象等についても踏み込んだ会談を行っていくべきと改めて感じた。
- ・きょうの議長同士のディスカッションの中で課題として提示されたホームレス問題は、福岡県内の「抱僕」の取り組みなど、バンコク都側に参考にさせていただける例があると考えるので、しっかり先方に伝えていければと思っている。

◎バンコク都議会主催歓迎宴(18:00～)

バンコク都議会主催の歓迎宴が開催され、ウィプット議長をはじめとするバンコク都議会議員の方々と懇談した。

藏内議長は、バンコク都議会の皆様への感謝の意を述べ、「ウィプット議長みたいに若くて将来性のある方と福岡県議会はしっかりとお付き合いさせていただきたいと思います。」と昨年バンコク都議会議長に就任されたウィプット議長に激励の言葉を贈られた。また、藏内議長より指名を受けた大田議員はワンヘルスへの熱い思いを語られ、「全世界にワンヘルスを広げていくように、今日懇親を深められることと思います。どうぞよろしくお願いいたします。」と挨拶された。



(藏内議長)



(スピーチを行う大田議員と豊福議員)

【1月16日(金)】

◎ベンチャキティ公園視察(9:30～)

## I. 概要

### 1. 日程

2026年1月16日(金)午前9時30分(現地時間)～

### 2. 視察先

・ベンチャキティ森林公園

Benchakiti Forest Park

Ratchadaphisek Rd, Khlong Toei, Bangkok

## II. 目的

この視察は、バンコク都の中心部、オフィスビルの並ぶアソーク地区の南にあるベンチャキティ森林公園において、その成り立ちや維持管理などについて学び、都市公園のあるべき姿について学ぶことが目的である。

## III. 報告

訪問団はまず園内で公園の来歴などを学んだ。この公園は、かつてタバコ工場が立地していたバンコク都中心部の広大な土地を活用し、2004年に「ベンチャキティ公園」としてオープンした。近年、西側エリアへの拡張工事が行われ、2022年2月には「ベンチャキティ森林公園」として、自然との共生も含めた環境配慮型公園として生まれ変わった。72ヘクタールという広大な園内には高架型の遊歩道であるスカイウォークのほか、大小の島が配された巨大な人工池、サイクリングコース、フットサル場、バスケットコート、テニスコートなどが整備され、自然と触れ合いながらスポーツも楽しめる場所となっている。自然博物館、シリキット皇太后歴史・芸術博物館、図書館なども併設されており、建物内には巨大なバンコク都のジオラマが作られ、バンコク都全体の中での公園の所在やその存在意義なども認識できるようになっていた。これらの施設を学習目的で活用するケースも多いのだろうと推察された。

レクチャーのあと、公園関係者の案内で園内をトロツコバスで視察した。人工的に造成されたものとは信じられないような樹木が繁茂したり、珍しい野鳥が生息するなど、都市の中心部に自然と共生できる施設がこうして整備されていることに感慨を得た。また、屋内運動場などのスポーツ施設にも感銘を受けた。

都市公園のあり方、整備についての知見を多いに学ぶことのできた訪問となった。

## バンチャキティ公園 概要

バンチャキティ森林公園はバンコクの中心部、高層のオフィスビルが立ち並ぶアソーク地区の南に位置する公園。2022年2月、拡張工事が進められていた西側エリアが一般公開され、バンチャキティ森林公園として生まれ変わり、同年8月3日に正式な開園式が執り行われた。



### 【バンチャキティ公園ができるまで】

1991年12月24日、閣議決定によりタバコ工場が地方に移され、タイ・タバコ専売公社が所有していた土地(現在の公園敷地)が残された。大蔵省は、バンコク都市計画局や関連部署と協力し、公園建設のためのモデルプランを担当計画した。この年の1992年はシリキット王妃(当時)の御生誕60周年の記念年であったため、王妃に敬意を表し公園が造られ、2004年には「バンチャキティ公園」として正式にオープンした。

その後は、財務省が公園を管理し、2008年6月1日、バンコク都に移管されました。シリキット王妃は、公園の名前を提供するだけでなく、園内に常に四季折々の花が咲くようにと植物を植えることを提案した。そのため、公園内は一年を通して様々な種類の花が咲き乱れ、訪れる人を飽きさせない。また、タイ各地の森林公園をモデルとしたコンセプト「Pa Rak Nam(水源を守る森)」を掲げ、バンコク初のウォーターパークが生まれた。公園中央に200m×800mもの大きな池を造り、現在では高層ビルと一体化した美しい景色が広がっている。

公園内には、バンチャキティエリア、野外レクリエーションエリア、ヘルスパーク、グラウンド、歩道、自転車レーン、パビリオン、駐車場など、さまざまな用途に応じたスペースが設けられている。スワンボートや自転車をレンタル(有料)することも可能。午後6時になると歩道橋のライトが点灯し、美しいスカイウォークが出現する。お隣のルンピニ公園までは遊歩道が繋がっており、20分ほどで移動できる。

(タイ観光庁 HP より)

## 視察内容

バンコク都の中心部、高層のオフィスビルが建ち並ぶ中に位置する都市公園の視察を行った。まず始めに公園の担当者から概要の説明を受け、その後公園内の見学を行った。広大な敷地には遊歩道や自転車道、様々なスポーツ施設が整備されており、市民が多様な活動を楽しめるオアシスとなっていた。都市の中心に位置しているにも

かかわらず、大きく枝を広げた木々や様々な花が生き茂り豊かな自然が広がっており、バンコク都が都市の発展と環境保全の両立に力を入れている様子が伺えた。



(公園の概要説明)



(設備内にあるバンコク都の巨大なジオラマ)

#### <訪問団コメント>

- ・ この施設は、先だつて亡くなられたシリキット王太后の意向を汲みつつ、改修を行いながら現在の姿となったとのことである。自然と触れ合える公園という、エンタメ性を排除したイメージがあるが、我々がレクチャーを受けた建物には上に掲載したジオラマも含め、観光資源としての要素もある施設である点が、福岡県としても参考になる点ではないかと感じた。バンコク都のセントラルパークともいえる憩いの場となっているこの森林公園は、とにかく広大であるという印象だ。過密都市であるバンコク都にこのような場所を整備するのは英断だと感じる。工場跡地の再開発という日本では商業施設を建造するのが当然のような風潮であるが、都市部におけるこのような施設の必要性を痛感させられた視察であった。
- ・ トロツコバスで園内を周遊した際、園の関係者の提案で、珍しい野鳥が営巣をしている場所で一旦停止して様子を観察する機会があった。鳥の美しさも素晴らしかったが、何よりその樹木のたたずまいは、30年ほど前までここがタバコ工場であったとはとても信じられないような、自然林そのものの印象であった。都市公園の造成の成功例として、福岡県もそのノウハウを学ぶべきであると感じ入った。また緑あふれる園内では、平日にもかかわらずスポーツを楽しんでいる人の姿が多くみられた。森林公園としての機能と、そうしたスポーツを楽しみたい方々への施設の整備とが高いレベルで融合している印象であった。この公園の設計にあたってどのような検討が行われたのかを詳しく知り、福岡県の公園の整備に役立てられればと思う。議員団からも機会をとらえ、福岡県の執行部側にその旨を伝えていきたい。

◎FAVA(アジア獣医師会連合)バンコクオフィス関係者との意見交換および視察  
(13:30～)

## I. 概要

### 1. 日程

2026年1月16日(金)午後1時30分(現地時間)～

### 2. 視察先

・タイ王国バンコク都畜産局

69/1 Phaya Thai Rd, Thung Phaya Thai, Ratchathewi,  
Bangkok

### 3. 対応者

・FAVA アジア獣医師会連合バンコクオフィス アチャリヤ所長、ワチャラポン博士ほか

## II. 目的

FAVA(アジア獣医師会連合)バンコクオフィスの関係者と面会し、目下のアジア、タイ王国における衛生的な問題・課題について意見交換し、その対応策などを考えることを目的に訪問した。

## III. 交流内容

訪問団は、歴史的建造物でもあるバンコク都のパヤタイ畜産局をたずね、そこのカンファレンスルームでFAVA関係者と意見交換を行った。

藏内議長は冒頭のあいさつで、福岡県では、世界で初めてワンヘルスを行政において法的に定義する「福岡県ワンヘルス推進基本条例」を福岡県議会からの議員提案で制定したという経緯を踏まえ、ワンヘルスアプローチについて福岡県が先駆的な取組を行っていることを示した。

その後の意見交換では、先だつてのバンコク都やバンコク都議会との懇談でも話題に上った狂犬病の対策を中心に意見が交わされた。藏内議長からは、日本での狂犬病の発生は昭和32年、1957年が最後であり、以来約70年間にわたって「清浄」な状態が続いていること、その大きな要因として1950年に施行された狂犬病予防法によってペットの犬が登録され、また予防注射が徹底されたことにより撲滅に至った経緯が示された。しかし近年、清浄な状態が当たり前になりすぎ、予防注射の必要性への認識が薄れてきたこと、犬がかわいそうといった感情論からワクチン接種への忌避感が強まっており、日本においても清浄な状態が保てるかどうか懸念されるといった意見が藏内議長から示された。

その後、ペットの体内にマイクロチップを埋め込むことの有意性についても意見が交わされたが、この点についても藏内議長は「タイ王国では『生類憐み』の感情が強く、そうしたこともチップ埋め込みの障壁になるのでは」といった意見を述べた。

目下の大きな問題である狂犬病をきっかけに、人獣共通感染症の封じ込めの困難さ、様々な課題について問題を共有することのできた意見交換会であった。

#### FAVA(アジア獣医師会連合)概要

1978年(昭和53年)に設立された、アジア太平洋地域 23 カ国・地域の獣医師会の連合組織で、約40万人の獣医師が加入。本部はタイのバンコク。福岡県には FAVA の日本事務所である「FAVA ワンヘルス福岡オフィス」が設置されている。

2年に一度の FAVA 大会開催、獣医学教育に関する国際交流等を実施。

現在、ワンヘルスなどの6つの常設委員会を設け、感染症や薬剤耐性菌対策、食の安全の確保、獣医学教育の向上など広範囲にわたり積極的に活動している。

FAVA ワンヘルス福岡オフィスでは、ワンヘルスに関するアジア・オセアニア各国の活動情報の収集と共有、FAVA や各国獣医師会の大会などにおけるプログラムの企画協力などの活動を行っている。

また、国連ハビタット福岡本部と連携した取組も検討してる。統一された専門家団体による責任ある動物の飼育と福祉、地域の人々の生活の質を向上されることを目標としている。

#### 【加盟国・団体】

オーストラリア、アフガニスタン、香港、インドネシア、インド、日本、韓国、モンゴル、ミャンマー、ネパール、ニュージーランド、フィリピン、シンガポール、スリランカ、台湾、タイ、タジキスタン、東ティモール、マレーシア、ベトナム、キルギス、アラブ首長国連邦、アメリカ合衆国

(FAVA 及び FOF HP より引用)

#### 視察内容

アジア獣医師会連合バンコクオフィス所長のアチャリヤ博士や畜産局の皆様と意見交換を行った。藏内議長は福岡県議会が世界で初めてのワンヘルス条例を制定したという実績に触れ、福岡県がワンヘルスの推進において先駆的な役割を果たしていることを強調された。また、今年の4月に世界獣医師会(WVAC)の会長に就任予定であることを改めて表明し、これまで FAVA と共に取り組んできたワンヘルスの活動を世界に広めていく決意を強く示された。その後、野犬対策を中心にディスカッションが行われた。



(意見交換の様子)



(記念品の交換)

### <訪問団コメント>

- ・ ここでも狂犬病への対応が話題の中心となった。いかにタイ王国、バンコク都にとって狂犬病対策が切迫した問題であるかがわかった会合であった。民間レベルでのペットへの接し方を変える(放し飼いをしないなど)ことは、なかなか困難であると思うが、そうした民間レベルでの対処を考えなければ先に進まない問題であるとも感じる。我々がタイ王国を訪れるたび、路地に野良犬が多いなという印象を持っていたが、それらの犬が狂犬病のキャリアであるとすれば極めて危険な状況であると思う。タイにおいては観光が重要な産業であり、観光客の生命と安全が狂犬病によって脅かされることは極めて大きな問題である。日本の持つ狂犬病の封じ込めノウハウが FAVA 等を通じてタイ、バンコクに伝えられ、狂犬病の撲滅に繋がるよう我々議員も尽力していきたい。
- ・ コロナ禍の折にワクチン忌避感情が高まった際にも感じたが、現在の公衆衛生における「清浄」状態が、ワクチンの普及や衛生意識の向上の努力を不断に行ってきた結果だということが忘れられがちである。そうした忘却が、根拠の乏しい、ワクチンを忌避すべきという声の高まりや、公衆衛生を守るための施策を軽視する風潮につながっていると思う。いったんクリーンな環境が失われれば、それを取り戻すにはとんでもない労力が必要となる。周知啓発と一言でいうが、理解しようとしらない人に理解を深めてもらうことは極めて困難である。しかしその困難を乗り越えなければ、狂犬病封じ込めという課題の解決にはつながらない。福岡県議会としても行政と手を携え、不断の努力で周知啓発を進めたい。そしてタイにおいて、ペットへのチップ埋め込みが進まない理由が「生類憐みの感情が強いため」という話題は、日本にとっても決して他人事ではないと感じる。注射を痛がるペットがかわいそうだからと、狂犬病ワクチンを打たない飼い主も多いという話は我々の周りでも聞く話だ。飼い主の意識の醸成も共通した大きな課題であり、そのための周知啓発における行政の役割は非常に重要である。我々議員も、粘り強く行政に働きかけを行っていく所存だ。

## 福岡県とバンコク都の友好提携協定と現在の主な取り組み

### 1 友好提携協定

(1) 2006年2月8日

「福岡県とバンコク都との友好提携協定書」を締結。

(2) 2012年2月10日(5周年)

「福岡県とバンコク都との友好提携強化に関する覚書」を締結。

青少年、環境分野での交流を強化することに合意。

(3) 2017年2月21日(10周年)

「福岡県とバンコク都との更なる友好提携強化に関する覚書」を締結。

高齢者施策分野での交流に取り組むことに合意。

(4) 2023年1月13日(15周年)

「福岡県とバンコク都との友好協力関係の更なる強化に向けた覚書」を締結。

未来の経済発展や社会変革に貢献するアントレプレナーシップを持つ人材の育成に取り組むことに合意。

※アントレプレナーシップ(entrepreneurship)とは:

日本語では「起業家精神」と訳されることが多いが、新しい事業を創造しリスクに挑戦する姿勢、イノベーションをもたらす新しい価値を生み出す思考・行動要素であり、あらゆる職業で求められるもので、精神というよりは「起業家的行動能力」と訳すことが、より基本概念に近い(「NPO 法人アントレプレナーシップ開発センター」より抜粋)。

(5)2024年11月20日

「福岡県とバンコク都の協力によるワンヘルスの推進に関する基本合意書」を締結。

人と動物の健康と環境の健全性を一つと捉えるワンヘルスの推進に協力することに合意。

## <訪問団団長 視察総括>

今回の福岡県議会タイ王国公式訪問は、福岡県とタイ王国、そしてバンコク都との長年にわたる友好関係の重要性を改めて確認するとともに、今後の交流と協力の方向性について多くの示唆を得る大変有意義な機会となった。

バンコク都知事及びバンコク都議会議長との会談では、2007年以来培われてきた相互信頼の強固さを実感した。とりわけ、福岡県が提唱し推進しているワンヘルスの理念について高い関心と期待が寄せられており、2024年に締結したMOUを基盤として、今後さらに具体的な連携を深化させていく必要性を確認した。また、狂犬病対策をはじめとする人獣共通感染症への対応は、国境を越えた共通課題であり、福岡県が培ってきた知見や経験を積極的に共有することの意義を強く感じた。

FAVA関係者との意見交換においても、狂犬病の封じ込めや予防接種の重要性について活発な議論が行われた。日本が長年にわたり狂犬病清浄国としての状態を維持してきた背景には、行政と県民が一体となった不断の努力がある。こうした経験はタイ王国にとっても有益な参考となるものであり、今後も人的ネットワークを活用しながら協力を進めていきたい。

環境分野では、バーンスー環境教育保全センターやベンチャキティ森林公園の視察を通じて、都市の発展と環境保全を両立させる先進的な取組を学ぶことができた。下水処理施設を環境教育や市民交流の場として活用する発想や、工場跡地を大規模な都市公園として再生し、市民の憩いと自然環境の保全を実現している姿は、福岡県のまちづくりや公共施設整備においても大いに参考となるものであった。

また、ワットポーマッサージスクールの視察では、タイ古式マッサージという伝統文化が体系的な教育と行政の支援によって継承され、世界的なブランドへと発展している実態を学んだ。地域に根差した文化や生活習慣を磨き上げ、次世代へ継承する姿勢は、福岡県における文化振興や観光振興を考える上でも重要な示唆を与えてくれた。私たち自身が身近に存在する地域資源の価値を改めて見つめ直し、世界に発信できる福岡の魅力を育てていく必要がある。

今回の訪問を通じて改めて感じたのは、人と人との信頼関係こそが国際交流の基盤であるということである。行政、議会、専門家、民間団体など、多様な主体が長年にわたり築いてきた交流の積み重ねが、今日の強固な友好関係を支えている。福岡県議会としては、今後もタイ友好議員連盟を中心に、ワンヘルス、環境、教育、文化など幅広い分野で交流を発展させ、両地域の発展と福岡県民・バンコク都民の幸福につながる実践的な協力を推進していく決意である。

福岡県議会バンコク都議会友好訪問団 日程【3泊5日】

令和8年1月13日(火)～17日(土)

日程	曜日	時間	行程	
1	1月13日	火	9:40	福岡空港 国際線ターミナル集合 (3階 日本航空 Eカウンター前)
			11:40	福岡空港発 (TG649)
			15:40	バンコク・スワンナプーム国際空港着
			18:30	バンコク都議会元議長との食事会
				【バンコク泊】
2	1月14日	水	10:00	ワットポーマッサージスクール 視察
			14:30	バーンスー環境教育保全センター 視察
			19:00～21:00	タイ国福岡県人会・タイ福岡OB会との意見交換会
				【バンコク泊】
3	1月15日	木	10:00	バンコク都知事 表敬訪問(バンコク都庁舎)
			14:30	バンコク都議会 表敬訪問(バンコク都第二庁舎)
			18:00～20:00	バンコク都議会主催 歓迎宴
				【バンコク泊】
4	1月16日	金	9:30	ベンチャキティ公園
			13:00	FAVA 視察(畜産局)
				【機中泊】
5	1月17日	土	1:00	バンコク・スワンナプーム国際空港発 (TG648)
			8:10	福岡空港着